平成２２年４月８日
運　転　免　許　課

# 常習飲酒運転者に講ずべき安全対策に関する調査研究の結果について

## １　調査研究の目的

常習飲酒運転者の実態を明らかにするとともに、飲酒運転違反者に対する効果的な教育の在り方等について検討する（20年度・21年度の２カ年で実施）。

## ２　調査研究委員会

委員長　石田敏郎（早稲田大学人間情報科学科教授）
委員　　樋口　進（久里浜アルコール症センター副院長）以下11名

## ３　調査研究の結果

### (1)　講習改善の方向性

飲酒運転違反者の実態について調査した結果、飲酒運転の再犯を防止するためには、飲酒行動の改善や飲酒運転に対する規範意識の向上を目的とした教育を継続的に行うことが必要である。

### (2)　新しい取消処分者講習の試行実施

飲酒運転違反者の実態を踏まえ、飲酒運転違反者に対して実施する新しい取消処分者講習を試行実施した。

ア　試行実施した講習のカリキュラム

(ｱ)　６週間に４回の講習（現行の講習：連続２日間で合計13時間）
(ｲ)　各回の講習の冒頭に呼気検査を実施
(ｳ)　AUDIT（スクリーニングテスト）
(ｴ)　飲酒運転をテーマとしたディスカッションの実施
(ｵ)　ブリーフ・インターベンション（短時間のカウンセリング）

イ　まとめ

講習終了後に行ったアンケート調査の結果によると、受講者及び講師の双方から講習が効果的であったとの意見がある一方、時間的な負担が大きいとの意見も多かった。

試行実施の結果を踏まえ、飲酒運転違反者に対して実施する講習のパターンとして、試行実施した講習の講習パターンのほか、２日連続12時間の講習を行い、４週間飲酒状況の記録を行った後、残り１時間の講習を実施する講習パターン（※）等、実現可能性のある講習パターンを例示した。

## ４　今後の方針

今年度から、取消処分者講習のカリキュラム策定に向けて、数府県においてモデル事業として新しい取消処分者講習を実施する。その際には、上記※印の講習パターンを基本として実施することとする。

# 飲酒運転違反者に対する取消処分者講習カリキュラムの比較

## 【現行】
2日連続13時間

7時間
導入
運転適性検査
性格と運転の概説
適性検査結果による指導
実車講習

6時間
実車講習
危険予知運転の解説
感想文

翌日以降
免許試験受験可能

## 【試行実施】
4日不連続13時間（6週間）

3時間
呼気検査
導入
運転適性検査
AUDIT
ブリーフ・インターベンション①

（2週間： 14日分の日記記入）

3時間
呼気検査
適性検査結果による指導
危険予知運転の解説

（2週間： 14日分の日記記入）

3時間
呼気検査
ディスカッション
実車講習
性格と運転の概説

（2週間： 14日分の日記記入）

4時間
呼気検査
ブリーフ・インターベンション②
実車講習
感想文

翌日以降
免許試験受験可能

## 【22年度モデル事業実施予定の案】
2日連続12時間＋1時間

6時間
呼気検査
導入
運転適性検査
性格と運転の概説
適性検査結果による指導
実車講習
AUDIT
ブリーフ・インターベンション①

6時間
呼気検査
危険予知運転の解説
ディスカッション
実車講習
感想文

（4週間： 30日分の日記記入）

1時間
呼気検査
ブリーフ・インターベンション②

当日の午後以降
免許試験受験可能

※ ブリーフ･インターベンション
人の特定行動に変化をもたらすことを目的とした短時間のカウンセリング

※ AUDIT
世界保健機構がスポンサーになり、数カ国の研究者によって作成された「アルコール使用障害に関するスクリーニングテスト」